



未来の先生展  
2017

# 叱らない指導力

開催日時 2017年8月27日(日) 14:20-15:50

場 所 武蔵野大学有明キャンパス1号館3F 306教室

講演者 城ヶ崎滋雄 (千葉県公立小学校教員)

## 内容

「子どもの要素」を理解し、年齢に合った対応を教師がすることで、子どもたちはそれを適切に使い、成長していくことができます。そのためにも、教師はぶつからず、戦わずに子どもを見守っていかなくてはなりません。

教師が「今はそういう時期なのだ」と割り切ることで指導が楽になり、無駄な叱りが少なくなります。その結果、子どもとの関係もよくなります。

## ここに注目！

「子どもの欠点に目がいく。そんな自分が嫌になる」と自分を責めてしまいがちですが、人間は本来、不足していることが気になるものです。それを知っていれば、欠点を客観的にみる余裕が生まれ、叱らない指導法を思いつくことができます。

教師の願いを優先すると叱ることが多くなります。それに対して、子どもの願いを叶えてあげると、「子どもって素晴らしいなあ」と感心することが多くなります。

## 講演者プロフィール



### 城ヶ崎滋雄

1957年生まれ。高校まで鹿児島県で過ごし、大学を卒業後、千葉県公立小学校教員となる。20歳代で教育委員会に出向し、社会教育に携わる。30歳代では市内初の不登校対策教員として不登校についての研鑽を積む。40歳代では荒れたクラスの立て直しに努める。50歳代では子育てで経験を生かして家庭教育にも活動の場を広げ、現在も学級担任として教壇に立つ。

子育て情報誌『OF』・『Poppy f』（いずれも新学社）、学研教室の先生向けの、『Smile』（学研）を通して、若い先生、塾の先生、保護者にアドバイス・情報発信をしている。

著者に、『高学年児童と「ぶつからない」「戦わない」指導法！』（学陽書房）、『困ったに答える教師の腕前診断』（さくら社）など多数。

## 講演者から参加者へのメッセージ

「子どもの要素」を良くないものとして認識すると、叱る機会は自ずと多くなってしまいます。それは、高学年の子どもにとって「先生に構ってもらった」と曲解することになり、ますます教師から叱られるようなことをしてしまいます。そして、教師は疲弊していつてしまうのです。

(『高学年児童と「ぶつからない」「戦わない」指導法！』のあとがきより)

叱らずに子どもと良い関係を築くにはどうしたいのかを一緒に考えていきましょう。